

京泉工業が構内参加

船舶機装品 工場2棟を建設

JFE商事造船加工

【尾道】JFE商事の完全子会社で船体ブロック一貫加工のJFE商事造船加工(本社||広島県尾道市、君嶋英樹社長)は、10月1日から新たに構内参加企業に製缶・船舶機装品製造の京泉工業(本社||尾道市、京泉晴洋社長)を加える。京泉工業は構内に工場2棟(建屋面積1997平方メートル)を建設し、船舶機装品の製造を開始する。

ブロック製作までを一貫して手掛ける。鋼材、ブロック材の荷役、保管機能も併せ持つ。今年8月で設立10周年を迎えた。

構内参加企業は一昨年末に旧JFKジャパン(現シヤパン・スチール)が工場撤退し、一時6社となったが、昨年8月に船舶舵や船尾骨材など製造の扶桑工業(本社||尾道市)、さらに今回、京泉工業が加わり、設立以来最多の8社体制となった。

旧JFKが使用していた構内南東側の第1、第3工場のうち、第3工場は構内参加企業で鋼材シヨットプラスト

・プライマー加工の二ホンケミカル(本社||広島県三原市)に形鋼の第2加工工場として貸与。第1工場は扶桑工業に貸与した。残る第2工場は撤去し、その跡地に京泉工業が投資して工場2棟を新設することになった。10月から建設に着手、来年2月末に工場建屋が完成する予定で、その後、京泉工業は本社工場の一部設備の移設、新設備の導入などを進め、船舶機装品の製造を開始する計画。

JFE商事造船加工は扶桑工業や京泉工業とは当面、建屋の賃貸契約のみだが、「先行き、業務面でも双方に

JFEホールディングスは29日、健康経営の推進を目的に「JFEグループ健康宣言」を制定したと発表した。企業理念の実現のために社員への安全と健康は欠くことができないという認識のもと、社員がいよいよ働くことができる職場を実現する。会社と健康保険組合が一体となり、社員とその家族の健康保持・増進に向けた取り組みを進める。安全と健康を最優先す

JFEHD 健康宮 働

JFE商事造船加工 4000平方メートルを借り、同社が船体ブロックの元請けとなり、鋼材荷役からシヨットプライマー加工切断

て、全国中小企業団体中央会助成金の16年度中小企業活動開拓調査・実現化事業として推進。適正化とコストに

シナジー効果が出るような連携を検討している(君嶋社長)方針。同社では、新中期3カ年計画の初年度にあたる2015年度の取扱量は前年度比微減となったものの、収益は加工比率がアップしたことなどから前年を上回った。中計2年目の16年度は、海運市況の低迷による造船メーカーの建造ピッチ鈍化などを踏まえ、取扱数量、売上高ともに、前年度比5%程度のマイナス計画としてスタート。上期はほぼその計画通りに推移したが、下期については「現段階では不透明感が強い」という。

ているものの、ここへきて建設関連需要で、これまでの後倒しばかりでなく、前倒しされる案件も出てきており、需要の本格回復へ向け、第3四半期は切断量が前年同期実績を上回る15万5000トンに達すると見ている。

組長 工事 板原 厚石

活動規模若干増へ

取材分野 取り組みは進捗

全国厚板シヤリング工業組合の石原慶明理事長(JFE鋼材社長)は28日、経済産業省ヒアリングの後、会見し、2016年度第3四半期(10-12月)は建設関連の一部で前倒しの動きも出ており、本年度後半以降の需要本格化に向け「活動規模は若干増加する」との見通しを示した。取材分野での取引適正化にも

書面化締結などの取り組みが進捗していること、全対象需要家に対する、書面の作成、締結を実施したとする回答率は40.1%で、これは取材関連を主体とする取材シヤリに限る

明示を通じて、同様に書面での取引が普及していないファブなど建設業界への波及も、広く促進したい考え。

アンケート結果を踏まえて取材取引適正化について、石原理事長は「組合会員、ファブの間で取引健全化への理解が深まっていることがわかった。取り組みも何らかの形で進んでいる」とし、厚板需要が本格的に動く来年

中国・韓国、厚板輸入、

中国・韓国、厚板輸入、